タイガーハイパーハードＴネクスト
耐力壁

【木造軸組大壁工法 ２仕様】

・床勝ち仕様　　国土交通大臣認定　FRM-0737

・床勝ち入隅仕様　国土交通大臣認定　FRM-0738

標準施工指導書

［令和５年10月版］

YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏
TIGER BRAND

目　次

項目	ページ
1. 耐力壁認定内容・適用範囲	2
2. 製品規格・標準寸法・物性	2
3. 接合具について	3
4. 柱頭、柱脚の補強	3
5. THHT ネクスト取扱い上の注意	4
6. ねじ打ちに関する注意事項	5
7. 施工方法	9
7-1 床勝ち仕様（FRM-0737：3.0 倍）	9
7-2 床勝ち入隅仕様（FRM-0738：2.8 倍）	12
8. 各部の施工方法	17

タイガーハイパーハードＴネクスト耐力壁 木造軸組大壁工法 標準施工指導書	Ｋ－０１３－２

タイガーハイパーハードＴネクストの施工に関する注意事項

タイガーハイパーハードＴネクスト（以下THHTネクスト）は木造軸組耐力壁の国土交通大臣認定を取得したせっこう系耐力面材です。耐力壁は、建物の水平耐力を請け負う構造耐力上主要な部分に該当します。そのため正しい方法で施工を行わなければ本来の耐力性能を得る事が出来ませんので、本書に従い正しい方法で施工して頂きますようお願いいたします。

尚、本書はTHHTネクストを１枚張りで耐力壁となすための施工指導書となっております。縦継ぎ張りで耐力壁とする場合は、各認定書およびP21「⑥縦継ぎ張りについて」を必ずご確認いただき、ご不明点はお問合せください。

1. 耐力壁認定内容・適用範囲

表１　THHTネクストを使用する耐力壁と認定番号

工法	認定番号	仕様	壁倍率	面材	接合具	ねじピッチ
木造軸組 大壁工法	FRM-0737	床勝ち	3.0	タイガー ハイパーハードＴ ネクスト	DTSN 4.2×32 (JIS B 1125：2015)	外周部 75㎜ 中通り 150㎜
	FRM-0738	床勝ち入隅	2.8			

［適用範囲］

・THHTネクストを使用した耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第40条～49条（ただし、第48条を除く。）に準拠した木造軸組となります。
・THHTネクストを使用した耐力壁は、室内側下地材および内部壁の下地材に用いるものとします。
・建築基準法施行令第46条第4項の表1に定める軸組又は昭和56年建設省告示第1100号に定める軸組を併用する場合は、倍率5を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。
・確認申請の際、大臣認定書（写し）の添付が必要になる場合があります。大臣認定書（写し）の入手についてはホームページまたは各支店 営業所にご請求ください。

2. 製品規格・標準寸法・物性

［規格］

・JIS認証：JIS A 6901　せっこうボード（GB-R）
・防火材料認定：NM-5511　不燃材料

表２　標準寸法

	厚さ（mm）	幅（mm）	長さ（mm）	参考重量（kg）
標準寸法	12.5	910	3000	28

注１）標準寸法以外のサイズについてはお問い合わせください。

表３　物性１（試験方法はJIS A 6901による）

含水率（%）	曲げ破壊荷重（N）	
	長さ方向	幅方向
3以下	500以上	200以上

表４　物性２（「一般財団法人　建材試験センター」による測定値）

項目	単位	物性値※
透湿率	ng／(m・s・Pa)	16.8
透湿抵抗	(m^2・s・Pa)／ng	0.76×10^{-3}
	(m^2・h・mmHg)／g	1.6
透湿比抵抗	(m・s・Pa)／ng	0.060
熱伝導率	W／(m・K)	0.22
熱抵抗	(m^2・K)／W	0.058

※測定値であり、保証値ではありません。

3. 接合具について

接合具（ねじ）は、JIS B 1125 : 2015 に規定される「ドリリングタッピンねじ DTSN4.2×32」を使用してください。
※DTSN4.2×32 は、当社でも販売しておりますのでお問い合わせください。
入数 : 100 本×20 巻×2 箱（計 4000 本）　仕様 : シート連結　施工枚数（標準寸法の場合）: 最大 32 枚／箱

4. 柱頭、柱脚の補強

柱頭、柱脚の継手および仕口に関する規定は建設省告示第 1460 号に規定されています。接合金物の選択は、但し書きを含めると下記 3 種類のいずれかの方法となり、壁倍率に応じた接合金物を確実に固定してください。

① 建設省告示第 1460 号表 1～表 3 による方法
② N 値計算法
③ 許容応力度計算

5. THHT ネクスト取扱い上の注意

5-1 荷姿

保管荷姿は通常、THHT ネクスト（12.5mm）で 80 枚を 1 山としています。
詳細な枚数については、最寄りの支店・営業所へご確認ください。

5-2 運搬

THHT ネクストの搬入は、建設元請業者の監督員との打ち合わせにより、現場の搬入計画に基づいて行ってください。

5-3 保管

・荷くずれ、角欠けがないように均等に置いてください。
・傾斜面、墨出し部に置かないでください。
・凸凹面や水漏れ部には置かないでください。上階から漏水の恐れがある場合は、あらかじめシートなどで THHT ネクストが濡れないように養生してください。
・THHT ネクストの保管は、波打ちや反りを防止するため高さのそろった台上にボードの縁が台からはみ出ないようにしてください（図 1 参照）。また、各山の一番上のボードは裏面を上面とし、保管する場合は、必ずパレット積みとしてください。
・2 段積みなどを行う場合は、台木の位置を 1 段目と 2 段目で揃えてください。
・THHT ネクストを踏み台にしないでください。

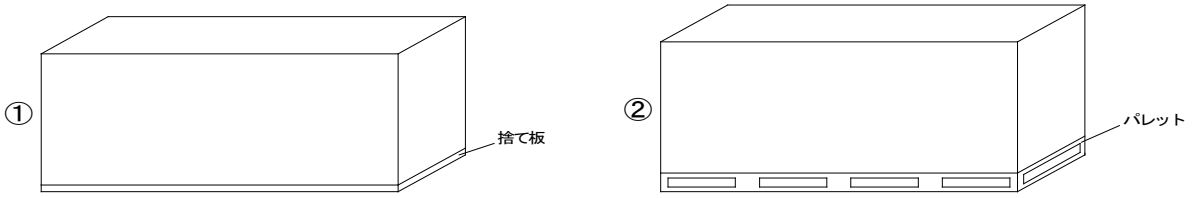


図 1　THHT ネクスト保管概略図

6. ねじ打ちに関する注意事項

・THHT ネクストは、幅・高さの寸法に応じてねじ本数が規定されていますので、P7 表 5 の一覧表に記載の本数を遵守してください。また、THHT ネクストは、原則 1 枚張りとします。縦継ぎ張りとする場合については、各仕様の認定書に記載のねじ本数表を必ずご確認ください。

・ねじ留め間隔が外周部で 75mm（マーキングからのねじのずれの許容差：±8mm）以下、中通りで 150mm（マーキングからのねじのずれの許容差：±15mm）以下になっていない場合やねじがめり込んだ場合、外周部 75mm 以下、中通り 150mm 以下になるようにねじを増し打ちしてください（図 2-1、図 2-2 参照）。

・ねじ打ちによる面材の割れが確認された場合、該当する THHT ネクストを全面取替えとします。

・木材の節などによりねじが斜めに打ち込まれ、下地から外れている場合、その近くにねじを増し打ちしてください（図 2-2 参照）。

・ねじ頭が面材と面一になるよう、自動ねじ打ち機の設定およびエアー圧を調整し試打後にねじ打ちしてください。また、樹種毎に調整をお願いいたします（図 3 参照）。

・自動ねじ打ち機で打ち込み不足が生じた場合、ドライバー等でねじ頭が面材と面一になるよう留め付けてください。

・<u>自動ねじ打ち機で施工する際、間柱、継手間柱などからねじが外れた場合にねじが貫通し施工面の裏側に飛び抜ける恐れがありますので、必ず反対側に人がいないことを確認してください。</u>

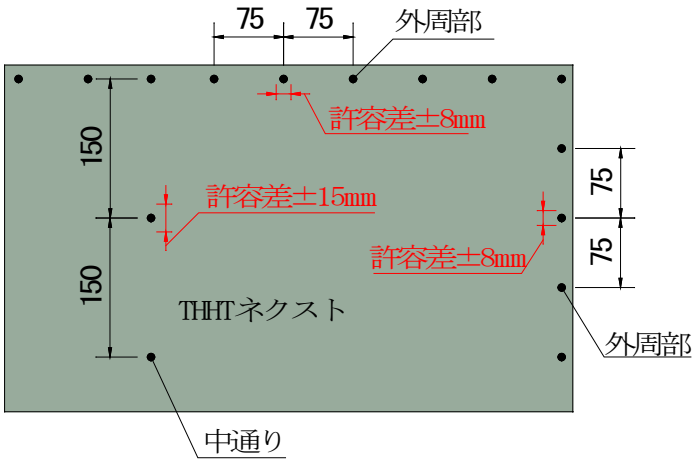


図 2-1　マーキングからのずれの許容差について

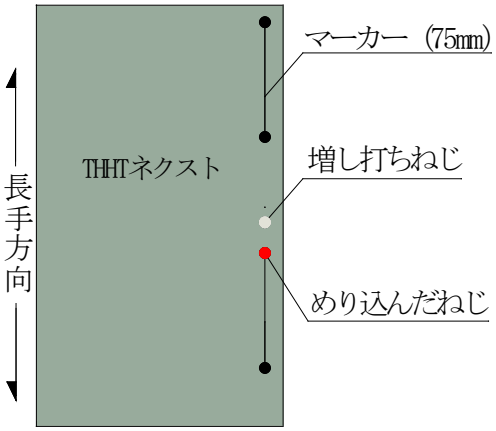


図 2-2　増し打ち概略

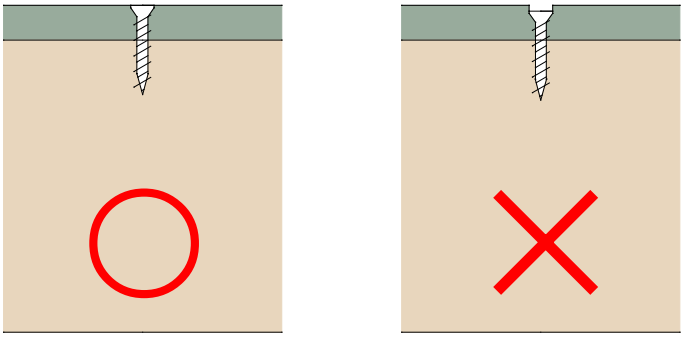
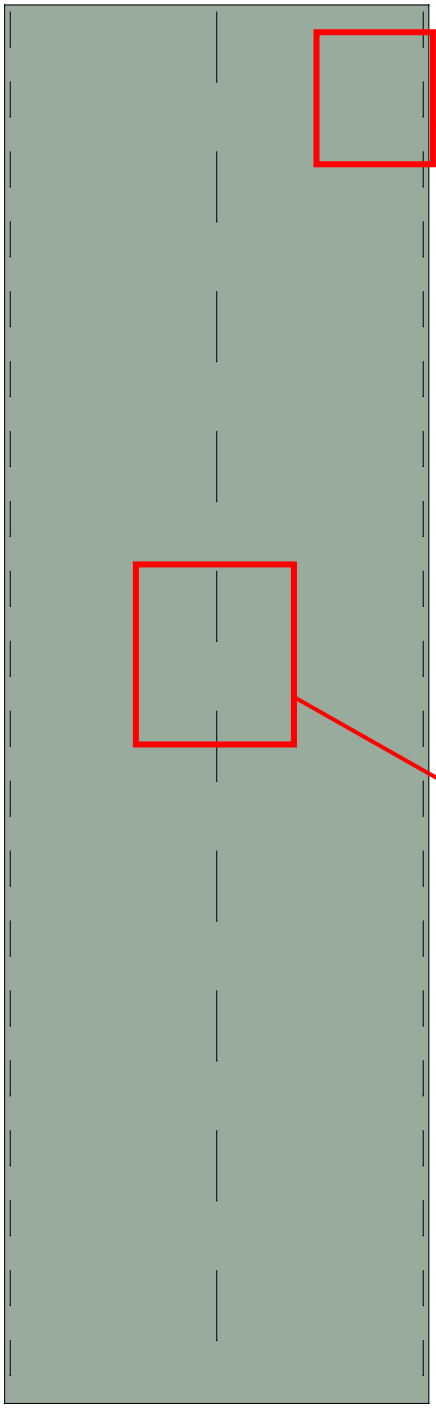


図 3　ねじめり込み概略

・THHT ネクストの長手方向にねじピッチを示すマーカーを外周部 75mm 間隔、中通り 150mm 間隔の黒色の破線で示していますので、規定の留付け間隔になるようにねじ打ちを行ってください（図 4-1 参照）。
THHT ネクストの短手方向にマーカーは入っていません。面材外周部の規定ピッチと縁端距離を守って施工時にマーキング等をしてからねじ留めしてください。マーカーは印刷の都合上、若干のズレが生じる場合があります。マーカーは目安とし、規定されたねじの縁端距離およびねじ本数でねじ打ちしてください。



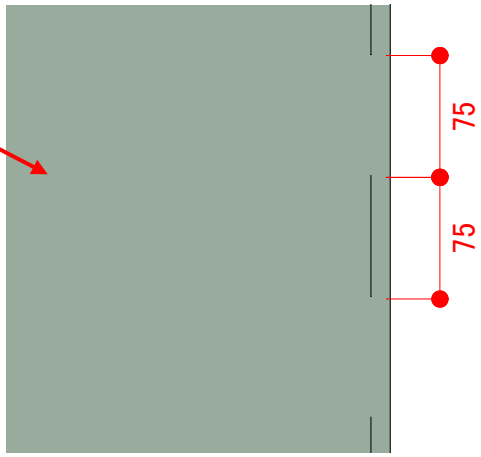


図 4-2　拡大図（右縁部）

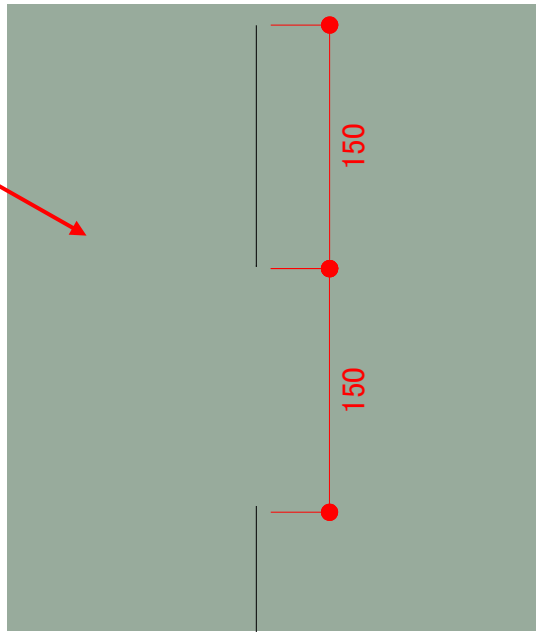


図 4-3　拡大図（中央部）

図 4-1　THHT ネクスト 910mm×3000mm 板　外観（表側）

[ねじ本数一覧表]

・表５に、面材のサイズごとのねじ本数が記載されておりますので、記載されている本数を遵守してください。

・ねじ本数の算出方法については、次ページをご確認ください。

表５　各仕様のねじ本数一覧

種類　：　ドリリングタッピンねじ DTSN 4.2×32
間隔　：　外周部間隔　75㎜ 以下
中通り間隔　150㎜ 以下
面材長辺からの縁端距離　柱・継手間柱位置　12㎜
面材短辺からの縁端距離　胴つなぎ位置　15㎜
横架材位置　15㎜

				床勝ち仕様	床勝ち入隅仕様
本数　：	面材外周部　短手方向長さ	832㎜ 以上	849㎜ 以下	―	12本
		849㎜ 以上	924㎜ 以下	―	13本
		900㎜ 以上	924㎜ 以下	13本	―
		924㎜ 以上	999㎜ 以下	14本	14本
		999㎜ 以上	1000㎜ 以下	15本	15本
	面材外周部　長手方向長さ	1385㎜ 以上	1455㎜ 以下	20本	20本
		1455㎜ 以上	1530㎜ 以下	21本	21本
		1530㎜ 以上	1605㎜ 以下	22本	22本
		1605㎜ 以上	1680㎜ 以下	23本	23本
		1680㎜ 以上	1755㎜ 以下	24本	24本
		1755㎜ 以上	1830㎜ 以下	25本	25本
		1830㎜ 以上	1905㎜ 以下	26本	26本
		1905㎜ 以上	1980㎜ 以下	27本	27本
		1980㎜ 以上	2055㎜ 以下	28本	28本
		2055㎜ 以上	2130㎜ 以下	29本	29本
		2130㎜ 以上	2205㎜ 以下	30本	30本
		2205㎜ 以上	2280㎜ 以下	31本	31本
		2280㎜ 以上	2355㎜ 以下	32本	32本
		2355㎜ 以上	2430㎜ 以下	33本	33本
		2430㎜ 以上	2505㎜ 以下	34本	34本
		2505㎜ 以上	2580㎜ 以下	35本	35本
		2580㎜ 以上	2655㎜ 以下	36本	36本
		2655㎜ 以上	2730㎜ 以下	37本	37本
		2730㎜ 以上	2805㎜ 以下	38本	38本
		2805㎜ 以上	2880㎜ 以下	39本	39本
		2880㎜ 以上	2955㎜ 以下	40本	40本
		2955㎜ 以上	3030㎜ 以下	41本	41本
		3030㎜ 以上	3105㎜ 以下	42本	42本
		3105㎜ 以上	3180㎜ 以下	43本	43本
		3180㎜ 以上	3255㎜ 以下	44本	44本
		3255㎜ 以上	3330㎜ 以下	45本	45本
		3330㎜ 以上	3405㎜ 以下	46本	46本
		3405㎜ 以上	3480㎜ 以下	47本	47本
		3480㎜ 以上	3555㎜ 以下	48本	48本
		3555㎜ 以上	3560㎜ 以下	49本	49本
	面材中通り　長手方向長さ	1385㎜ 以上	1530㎜ 以下	9本または10本	9本または10本
		1530㎜ 以上	1680㎜ 以下	10本または11本	10本または11本
		1680㎜ 以上	1830㎜ 以下	11本または12本	11本または12本
		1830㎜ 以上	1980㎜ 以下	12本または13本	12本または13本
		1980㎜ 以上	2130㎜ 以下	13本または14本	13本または14本
		2130㎜ 以上	2280㎜ 以下	14本または15本	14本または15本
		2280㎜ 以上	2430㎜ 以下	15本または16本	15本または16本
		2430㎜ 以上	2580㎜ 以下	16本または17本	16本または17本
		2580㎜ 以上	2730㎜ 以下	17本または18本	17本または18本
		2730㎜ 以上	2880㎜ 以下	18本または19本	18本または19本
		2880㎜ 以上	3030㎜ 以下	19本または20本	19本または20本
		3030㎜ 以上	3180㎜ 以下	20本または21本	20本または21本
		3180㎜ 以上	3330㎜ 以下	21本または22本	21本または22本
		3330㎜ 以上	3480㎜ 以下	22本または23本	22本または23本
		3480㎜ 以上	3560㎜ 以下	23本または24本	23本または24本

［ねじ本数の算出方法］

・面材の外周部及び中通りの部分における、ねじ本数の算出方法について（図５参照）

面材の長手方向及び短手方向の辺長（H、L）から縁端距離（H1＋H2、L1＋L2）を引いた長さ（H－（H1＋H2）、L－（L1＋L2））を算出し、その長さを各部のねじ間隔（P、Q）で割ります。外周部のねじ本数はその値の**小数第一位を切り上げて１を加えた値**とし、中通りの部分のねじ本数はその値の**小数第一位を切り上げて１を引いた値**とします。

面材四隅のねじは長手・短手両方向のねじ本数として数えることとしますが、中通りの部分と外周部のねじを結ぶ直線上のねじは、中通りの部分のねじ本数として数えないものとします。ここで、L は 832mm～1000mm のいずれかの値、H は耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、H1 及び H2 は 15mm、L1 および L2 12mm、P は 75mm、Q は 150mm とします。

計算例　幅 910mm　長さ 2740mm の場合

・長手方向 H=2740mm
・短手方向 L= 910mm
・縁端距離 H1,H2=15mm
・縁端距離 L1,L2=12mm
・留め付け間隔　外周部 P　　75mm
　　中通り Q　150mm

ねじの本数

長手方向：(2740－（15＋15））／75
　　＝36.1⇒小数第一位切り上げ⇒37
　　⇒37＋1＝38 本

短手方向：(910－（12＋12））／75
　　＝11.8⇒小数第一位切り上げ⇒12
　　⇒12＋1＝13 本

中通り部：(2740－（15＋15））／150
　　＝18.1⇒小数第一位切り上げ⇒19
　　⇒19－1＝18 本

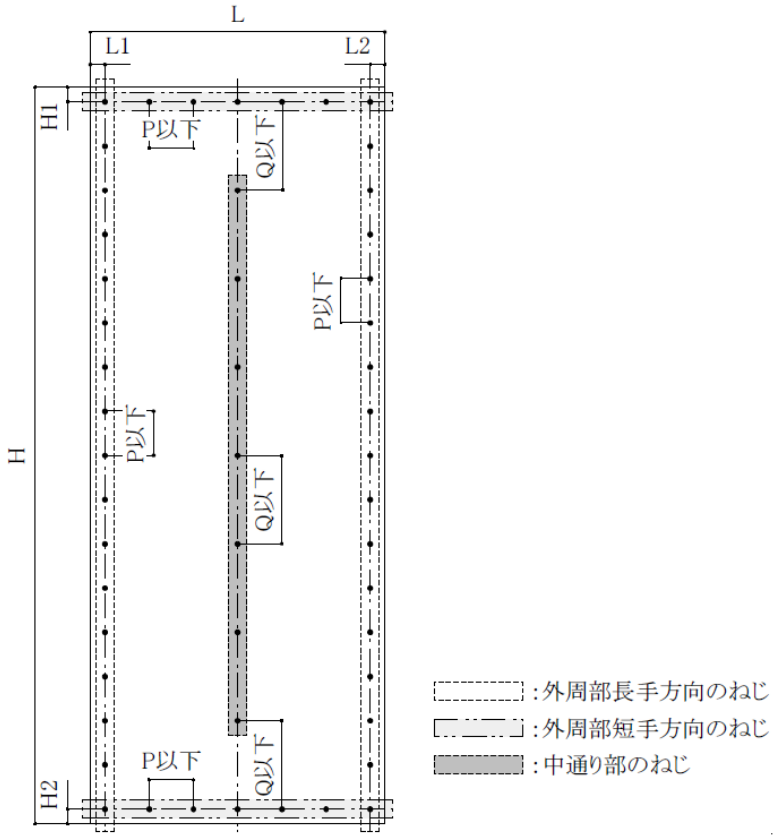


図５　THHT ネクストねじ留め付け本数概略

計算結果　幅 910mm、長さ 2740mm の場合、ねじの使用本数は合計 116 本となります。

THHT ネクスト耐力壁
床勝ち仕様（FRM-0737）：3.0 倍

7-1. 床勝ち仕様（FRM-0737：3.0 倍）

施工においては、図６および注意事項に記載の内容を遵守してください。

※ここで横架材とは、梁・胴差・桁を指す。

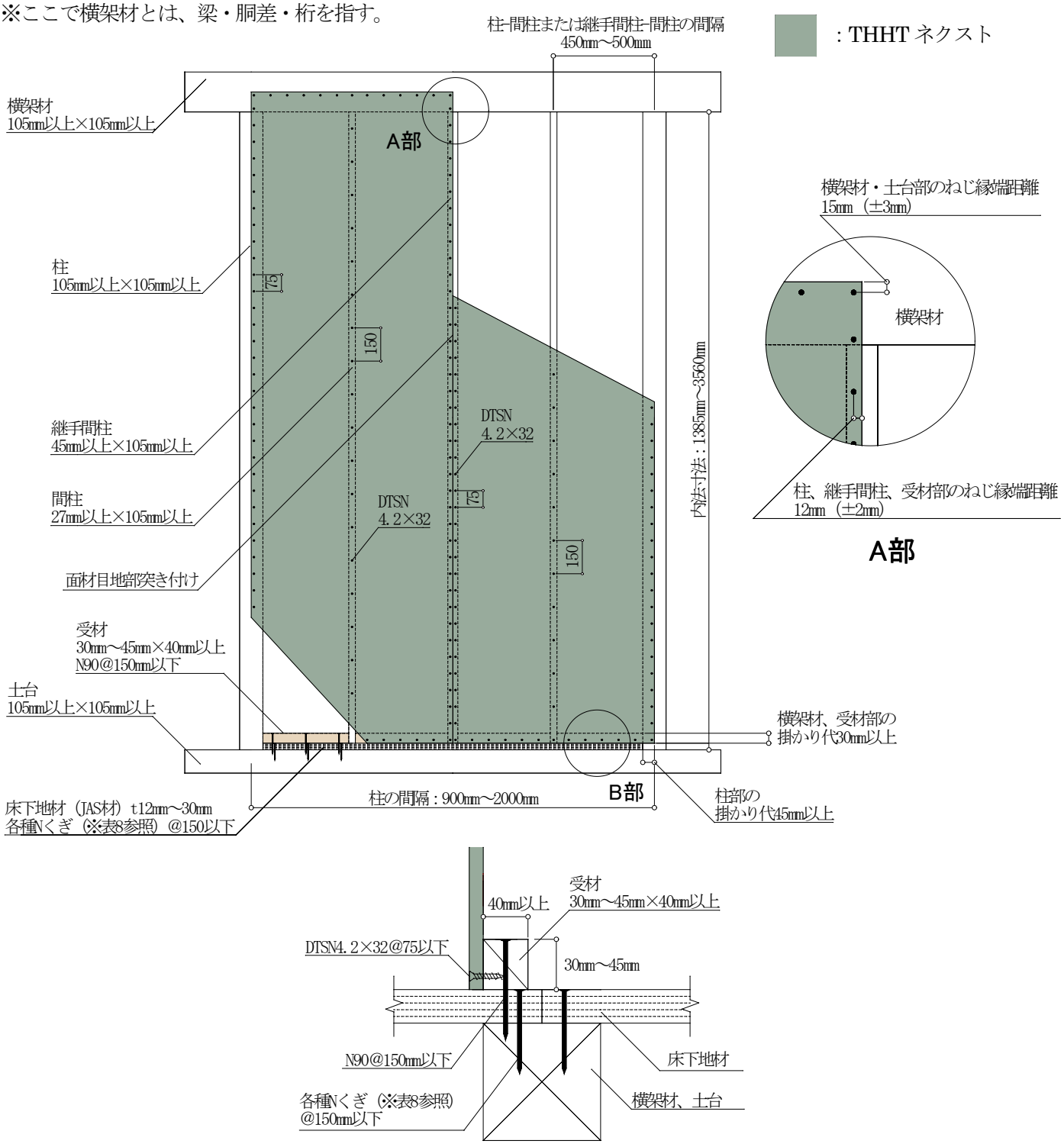


図６　床勝ち仕様（FRM-0737：3.0 倍）　施工概略図（2P の場合）

［床勝ち仕様（FRM-0737：3.0 倍）の注意事項］

・THHT ネクストは、必ず軸組に直張りとし、面材同士を突き付けとなるように施工してください。
・THHT ネクストは、原則 1 枚張りとします。縦継ぎ張りについては、P21「⑥縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
・THHT ネクストは、必要に応じてカットして使用してください（幅方向、長手方向とも）。
・図 6 は 2P の施工例となっておりますが、1P の場合も耐力壁とできます。
・継手間柱部分で THHT ネクストを継ぐ場合、水平方向に 1 箇所までとし、突き付けとなるように施工してください。
・軸組材の寸法は、表 7 に記載の内容を遵守してください。
・面材の留付け方法は、「6. ねじ打ちに関する注意事項」を遵守してください。
・床下地材は、厚さに応じたくぎ（表 8）を用いて、150mm 以下の間隔で留め付けて下さい。
・受材は、N90 くぎを用いて 150mm 以下の間隔で留め付けて下さい。

表 7　床勝ち仕様　軸組材の概要

部位		寸法等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	見付け 105mm 以上×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm 以上×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm 以上×見込み 105mm 以上
床部受材	断面寸法	見付け 30～45mm×見込み 40mm 以上
床下地材（構造用合板 JAS 材、構造用パネル JAS 材）		厚み 12mm～30mm
柱の間隔		900mm～2000mm
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔		900mm～1000mm
間柱と柱または間柱と継手間柱の間隔		450mm～500mm
横架材間の内法寸法		1385mm～3560mm

例）継手間柱、間柱等の取り付け方法。
イ：上下部に突き付けの上　2-N75 斜め打ち
ロ：上部にほぞ差し、下部土台に突き付けの上 2-N75 斜め打ち
ハ：上下部大入れ、2-N75 斜め打ち
ニ：上部大入れ、下部突き付け、2-N75 斜め打ち

表 8　床下地材の厚さに対する使用くぎ（くぎピッチ 150mm 以下）

厚さ（mm）	くぎの種類
12mm 以上 15mm 以下	N50（JIS A 5508）
15mm 超え 20mm 以下	N65（JIS A 5508）
20mm 超え 30mm 以下	N75（JIS A 5508）

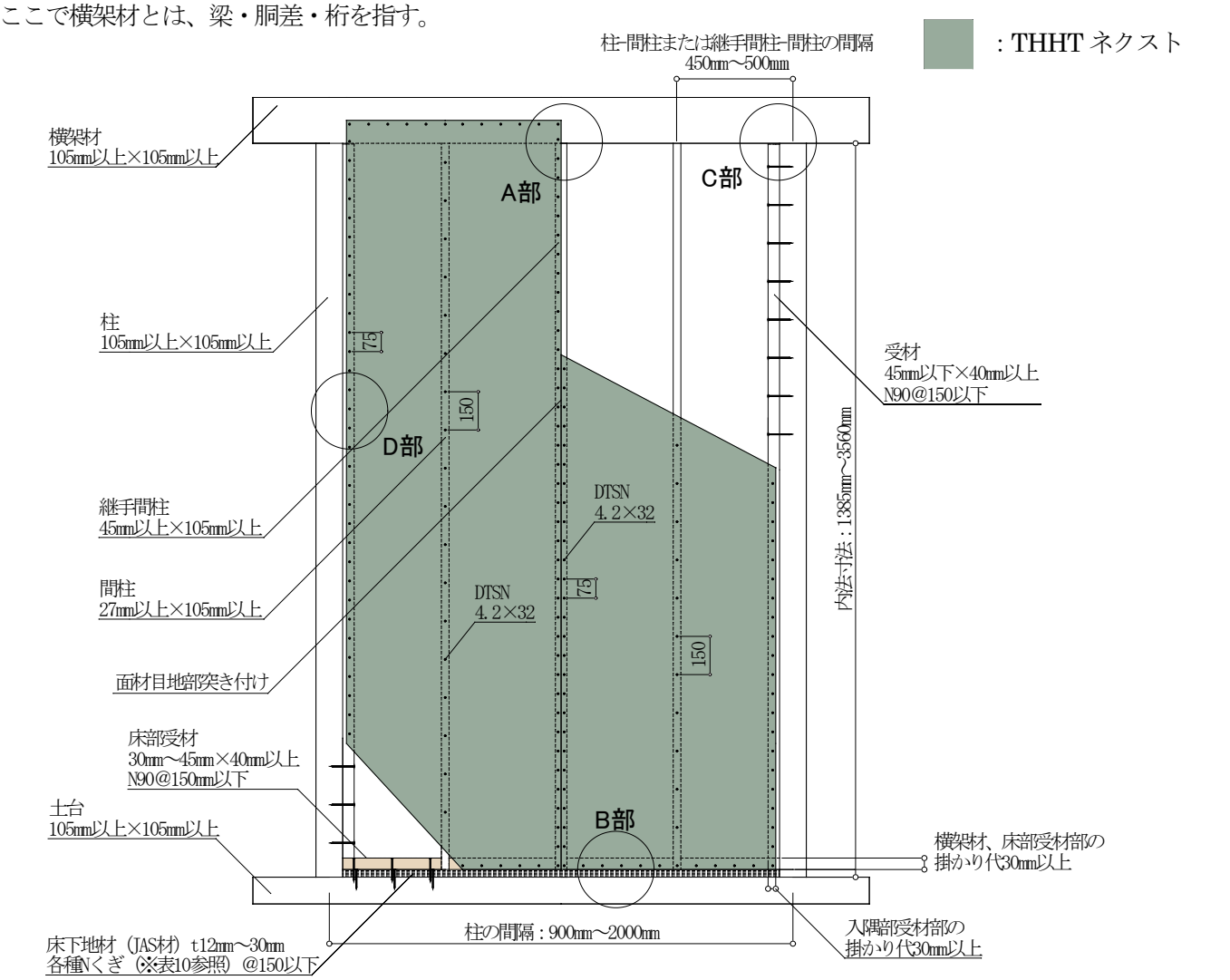
THHT ネクスト耐力壁

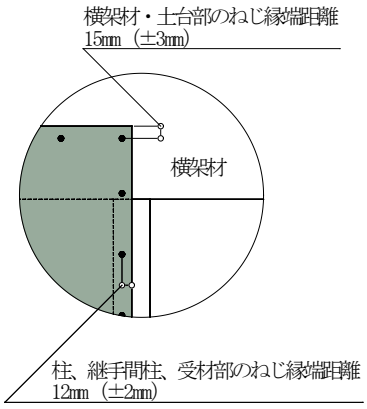
床勝ち入隅仕様（FRM-0738）：2.8 倍

7-3. 床勝ち入隅仕様（FRM-0738：2.8 倍）

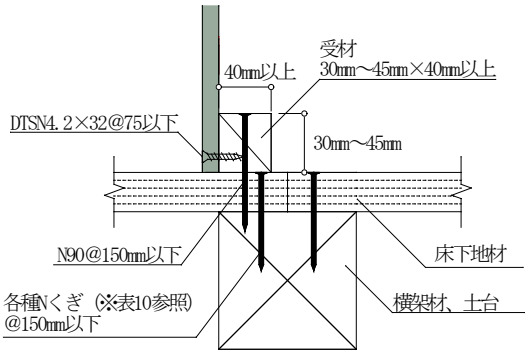
施工においては、図７および注意事項に記載の内容を遵守してください。

※ここで横架材とは、梁・胴差・桁を指す。

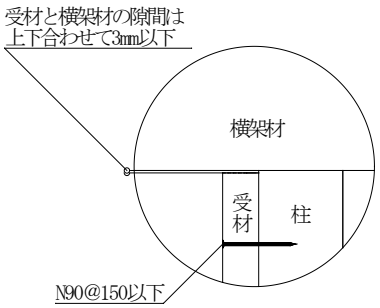




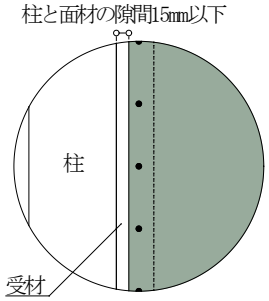
A部



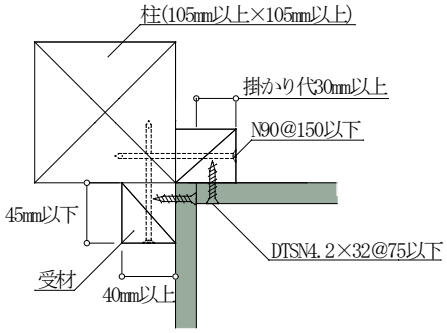
B部（垂直断面図）



C部



D部



D部（水平断面図）

図７　床勝ち入隅仕様（FRM-0738：2.8 倍）　施工概略図（2P の場合）

［床勝ち入隅仕様（FRM-0738：2.8 倍）の注意事項］

・THHT ネクストは、必ず軸組に直張りとし、面材同士を突き付けとなるように施工してください。
・THHT ネクストは、必要に応じてカットして使用してください（幅方向、長手方向とも）。
・THHT ネクストは、原則１枚張りとします。縦継ぎ張りについては、P21「⑥縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
・図７は 2P の施工例となっておりますが、1P の場合も耐力壁とできます。
・継手間柱部分で THHT ネクストを継ぐ場合、水平方向に１箇所までとし、突き付けとなるように施工してください。
・軸組材の寸法は、表９に記載の内容を遵守してください。
・面材の留付け方法は、「6. ねじ打ちに関する注意事項」を遵守してください。
・入隅部受材は、N90 くぎを用いて 150mm 以下の間隔で留め付けてください。
・床下地材は、厚さに応じたくぎ（表 10）を用いて、150mm 以下の間隔で留め付けて下さい。
・床部受材は、N90 くぎを用いて 150mm 以下の間隔で留め付けて下さい。

・１つの耐力壁について、⑴片側に入隅部がある場合、⑵両側に入隅部がある場合のいずれも耐力壁（2.8 倍）とできます（図 8）。尚、入隅部面材の勝ち負けおよび 1P・2P は問いません（例：⑶）。

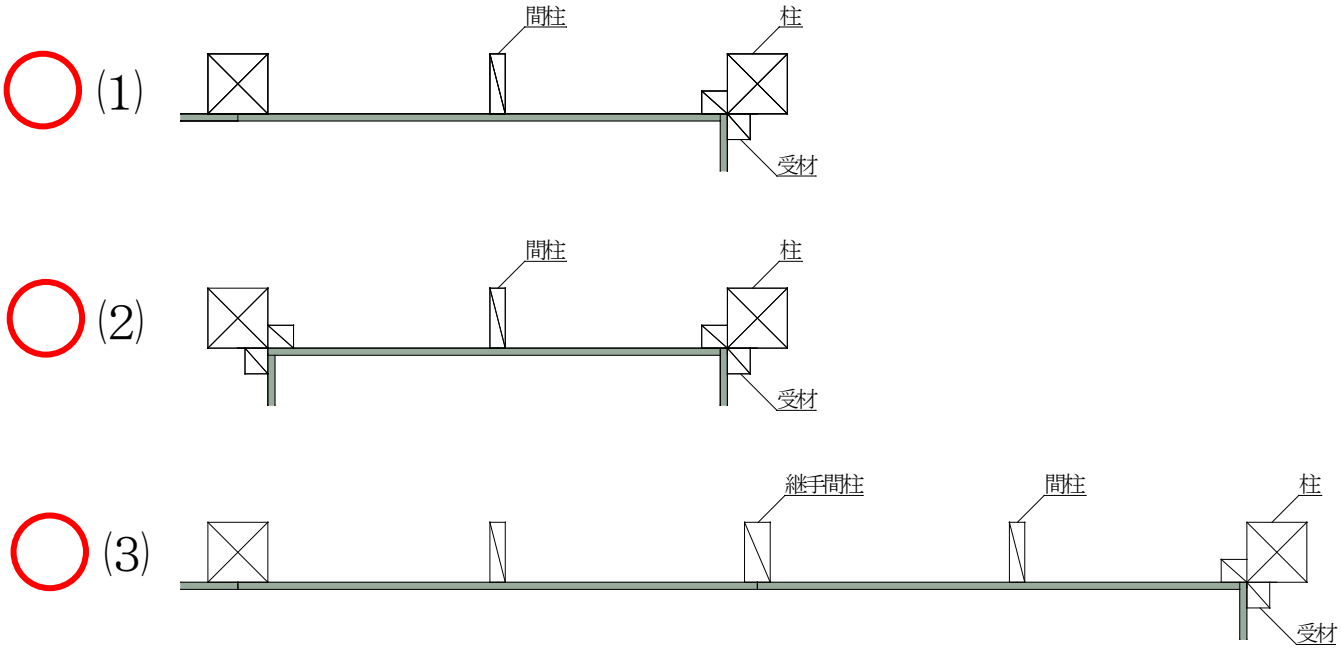


図 8　入隅部の納まり図①

・⑷直交する両壁ともに耐力壁（2.8 倍）とできます。また、⑸直交するどちらかの壁が雑壁であった場合でも、もう一方の壁は耐力壁（2.8 倍）とできます（図 9）尚、入隅部面材の勝ち負けおよび 1P・2P は問いません。

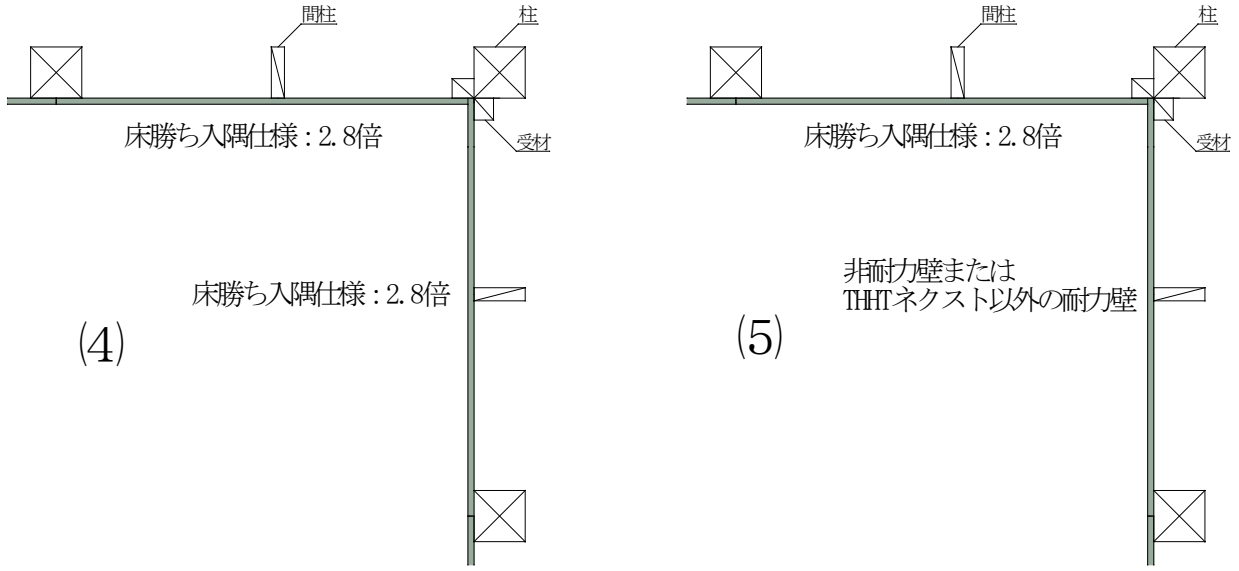


図 9　入隅部の納まり図②

表９　床勝ち入隅仕様　軸組材の概要

部位		寸法等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	見付け 105mm 以上×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm 以上×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm 以上×見込み 105mm 以上
入隅部受材	断面寸法	見付け 45mm 以下×見込み 40mm 以上
床部受材	断面寸法	見付け 30～45mm×見込み 40mm 以上
床下地材（構造用合板 JAS 材、構造用パネル JAS 材）		厚み 12mm～30mm
柱の間隔		900mm～2000mm
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔		900mm～1000mm
間柱と柱または間柱と継手間柱の間隔		450mm～500mm
横架材間の内法寸法		1385mm～3560mm

例）継手間柱、間柱等の取り付け方法。
イ：上下部に突き付けの上　2-N75 斜め打ち
ロ：上部にほぞ差し、下部土台に突き付けの上 2-N75 斜め打ち
ハ：上下部大入れ、2-N75 斜め打ち
ニ：上部大入れ、下部突き付け、2-N75 斜め打ち

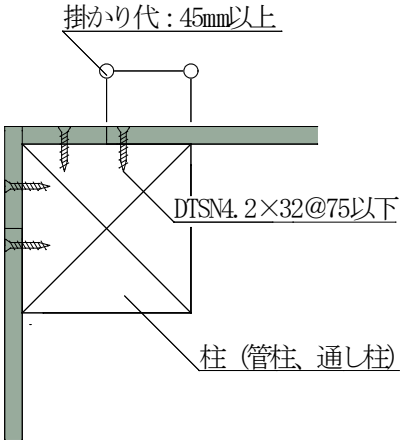
表 10　床下地材の厚さに対する使用くぎ（くぎピッチ 150mm 以下）

厚さ（mm）	くぎの種類
12mm 以上 15mm 以下	N50（JIS A 5508）
15mm 超え 20mm 以下	N65（JIS A 5508）
20mm 超え 30mm 以下	N75（JIS A 5508）

8.各部の施工方法

①出隅部分

出隅部分では、面材を軸組に直張りとした場合、直交する両側の壁ともに耐力壁の床勝ち仕様（3.0 倍）とできます（図 10）。



3.0倍（床勝ち仕様）

図 10　出隅部（外面合わせ）の納まり図

②筋交い等を併用する場合について

・THHT ネクスト耐力壁と筋交いを併用する場合は、倍率 5 倍を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。

・THHT ネクストと筋交いを併用する場合は、間柱および継手間柱を切り欠いて施工してください。
尚、切り欠き寸法は、筋交いの寸法に応じて最低限にとどめてください。

・外壁側の耐力面材タイガーEX ハイパー（標準 2.7 倍、床勝ち 2.2 倍、入隅 2.7 倍／2.5 倍）やタイガーEX プログレ（標準 2.7 倍、床勝ち 2.7 倍、入隅 2.5 倍）を併用することも可能です。筋交いと同様に、倍率 5 倍を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。

③小開口を設ける場合について

国土交通省住宅局建築指導課長通達（平成 19 年 6 月 20 日付国住指第 1335 号）に基づき、（公財）日本住宅・木材センター発行の「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017 版）2.4.1(6)」においては、「開口部を設けない場合と同等以上の剛性及び許容せん断耐力を有するものとして開口部に該当しないものとして取扱うことのできる開口仕様」について以下の通り示されています。

THHT ネクストに小開口を設ける場合は、下記の①または②の方法で実施することについて、必ず指定確認検査機関等にご相談の上、実施してください。

①穴径（対角線）が 150mm 以下　⇒　補強不要

「穴径が 12t 以下かつ、L／6 以下ならば補強不要」より

12t＝12×12.5mm＝150mm

L／6＝910mm／6＝151.7mm

②穴径（対角線）が 150mm より大きく、455mm 以下　⇒　四周を受材等で補強して面材をねじ打ちすれば可

「穴径がL／2（50cm 程度）までなら、四周を受材等で補強して面材をねじ打ちすれば可」より

L／2＝910mm／2＝455mm

※メートル幅の場合、500mm まで可

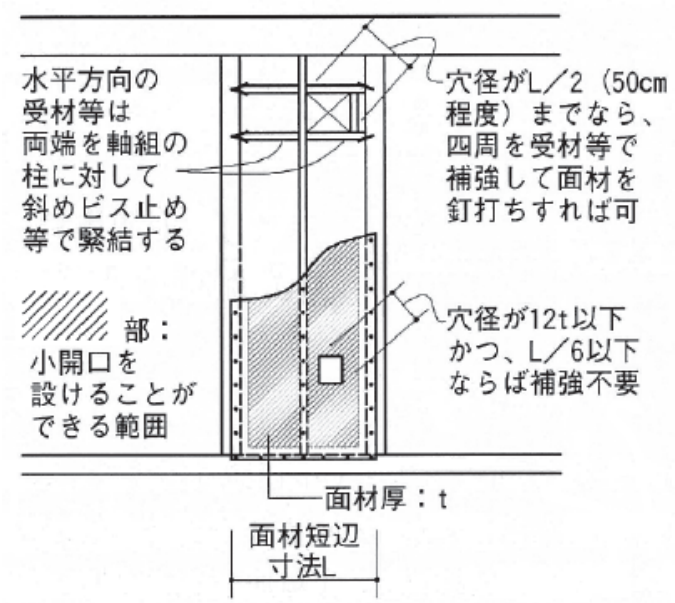


図 11　剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方

「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017 版）」

（公財）日本住宅・木材技術センターP65 図 2.4.1.10 より引用

④開口部周りの垂れ壁・腰壁部分について

・開口周り等に、THHT ネクストを施工しても、建築基準法の耐力壁や、品確法（住宅の品質確保の促進等に関する法律）の準耐力壁には該当しません。

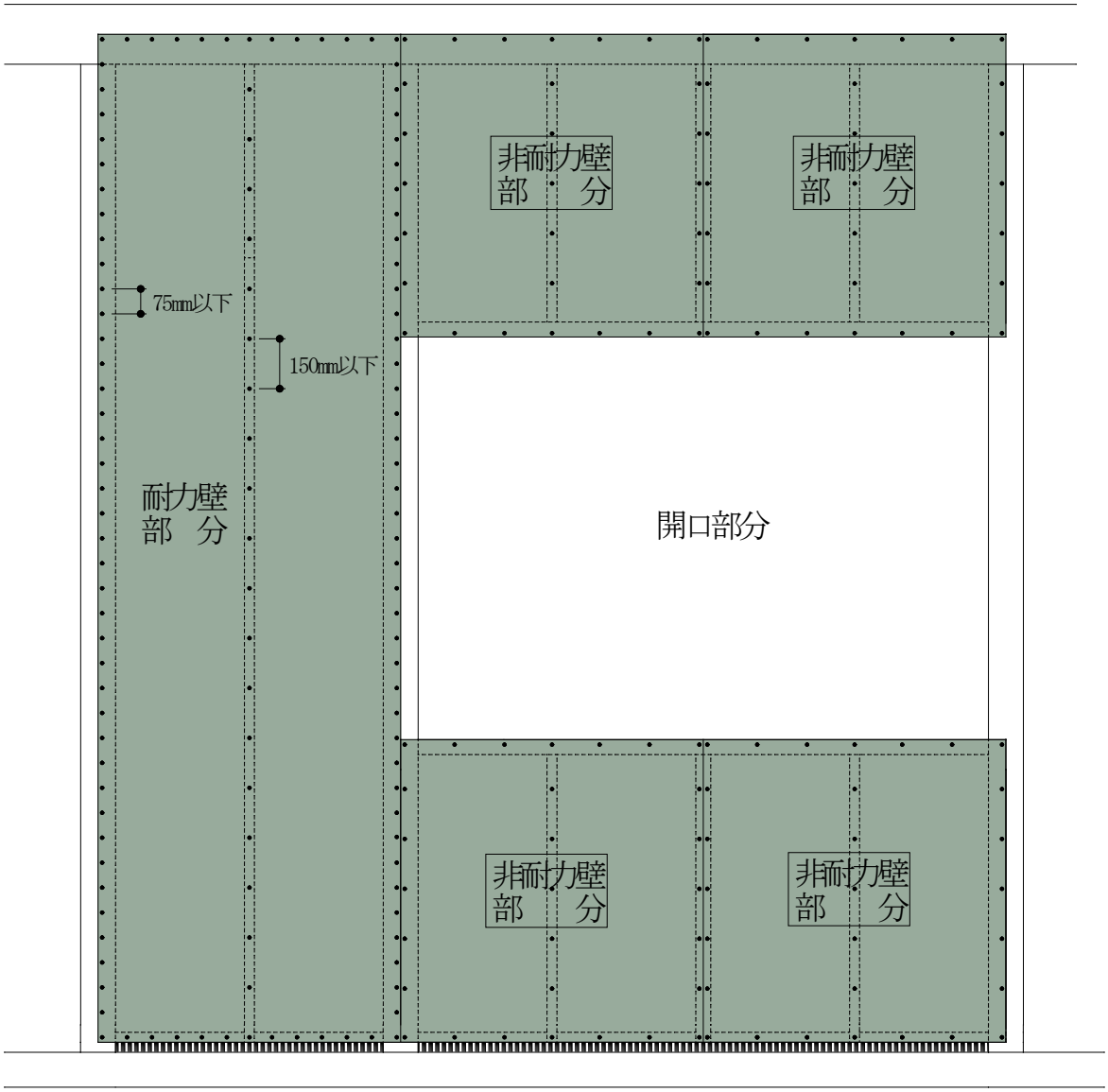


図 12　垂れ壁・腰壁部分　納まり図

⑤面材の欠き込みについて

・THHT ネクスト耐力壁は欠損部がないことを原則としておりますが、直交梁等により THHT ネクストのねじ打ち部分に欠損部が生じる場合については、切欠き寸法を最小にした上で、欠損部により打てなくなったねじと同数のねじで留め付けてください。詳細については、図 13 を参照してください。

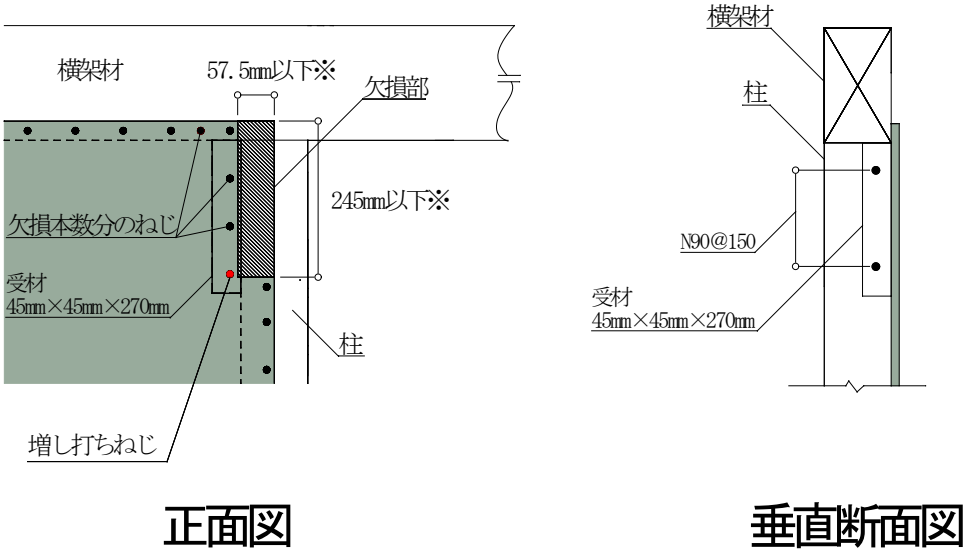


図 13　欠損部補強例（直交梁等）

※欠損部に直交梁などを施工する場合は、5mm 以上の隙間を設けるとともに、欠損部の規定寸法を遵守してください。

⑥縦継ぎ張りについて

・THHT ネクストは、胴つなぎを用いて縦継ぎ張りとすることで、より大きい高さの耐力壁をなすことが可能です。
但し、各仕様の概要は表 11 の通りとなっておりますのでご注意の上、必ず各認定書（別添）をご確認ください。
・縦継ぎ箇所は 1 箇所迄とし、下側面材寸法は、長さ 1820、2730、3030mm のみとなりますが、
それぞれ内法寸法の下限値が異なりますのでご注意ください。詳しくは認定書（別添）をご確認ください。
・胴つなぎを設ける場合は、柱や間柱類に「直接」取り付けてください。すなわち、床勝ち入隅仕様の場合は、
入隅部の受材に対して胴つなぎが「勝ち」となります。
・縦継ぎ張りの場合もねじ本数が規定されております。面材寸法に応じたねじ本数を厳守してください。ねじ本数表については各認定書（別添）に記載されておりますので、必ずご確認ください。尚、計算方法は、P8 に記載の通りです。

表 11. 縦継ぎ張りの概要

認定仕様	横架材間の内法寸法	胴つなぎ（断面寸法）
床勝ち仕様（FRM-0737：3.0 倍）	2155～4395mm	見付け 60mm 以上 × 見込み 45mm 以上
床勝ち入隅仕様（FRM-0738：2.8 倍）	2620～4395mm	

⑦フローリングの納まりについて

THHT ネクストに対して、フローリングが「勝ち」となる場合は、下記の事項を厳守してください。
・フローリングは厚 15mm 以下としてください。
・受材は、見付け 45mm×見込み 40mm 以上のものを使用してください。
・THHT ネクストと受材との掛かり代は、30mm 以上確保してください。

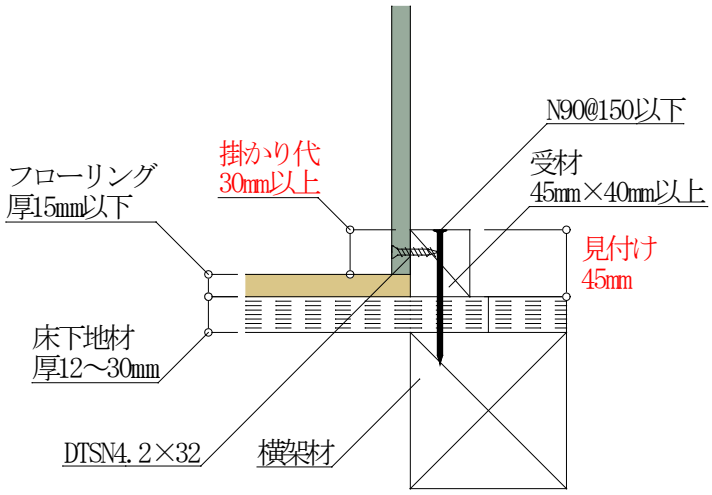


図 14　フローリングの納まり図

⑧耐力壁となる割付

・1P の耐力壁

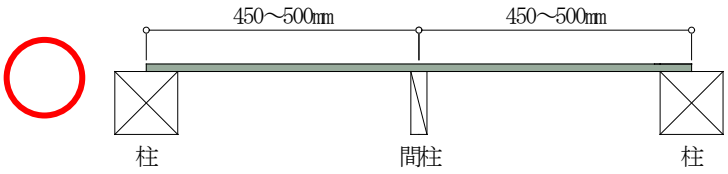


図 15　1P 耐力壁　納まり図

・2P の耐力壁

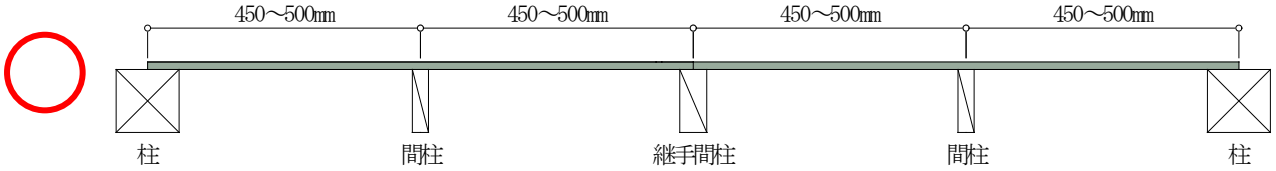


図 16　2P 耐力壁　納まり図

⑨雑壁（＝認定範囲外）となる割付

・1.5P の壁

耐力壁の継手間柱と柱の間隔は、900～2000mm です。1.3P や 1.7P 等も同様に雑壁となります。

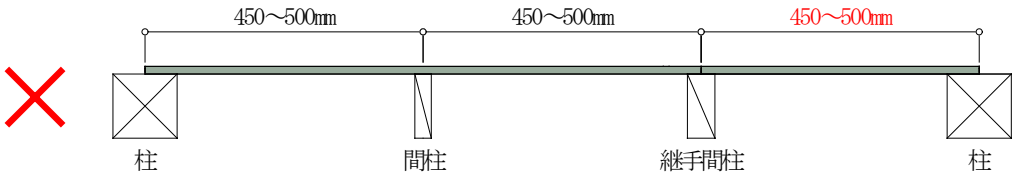


図 17　1.5P の壁　納まり図

・狭小幅の壁

耐力壁の柱間距離は、900～2000mm です。900mm 未満の場合（例：600 や 455 等）は、雑壁となります。

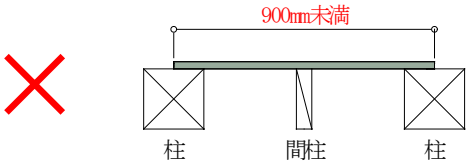


図 18　狭小幅の壁　納まり図

・3P の壁

耐力壁の柱間隔は 900～2000mm です。継手間柱を用いて THHT ネクストを継ぐ場合、水平方向に 1 箇所までとしてください。4P、5P 等も同様に雑壁となります。

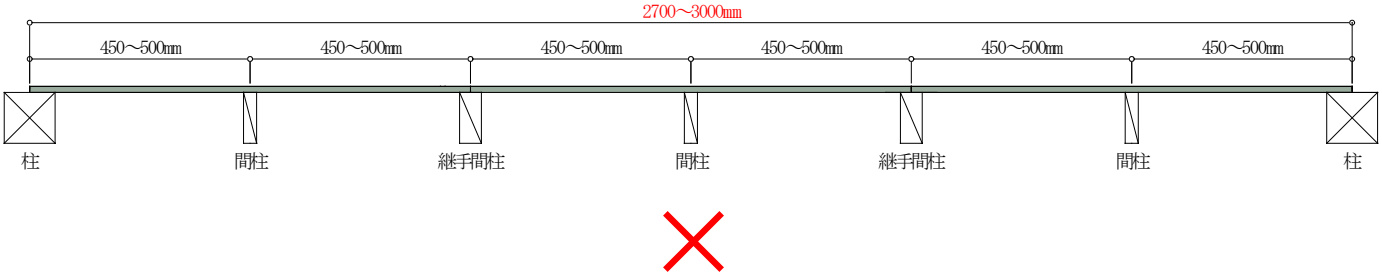


図 19　3P の壁　納まり図

・端部が間柱および継手間柱となる壁

耐力壁の両端は必ず柱としてください。端部が間柱および継手間柱の場合は、雑壁となります。

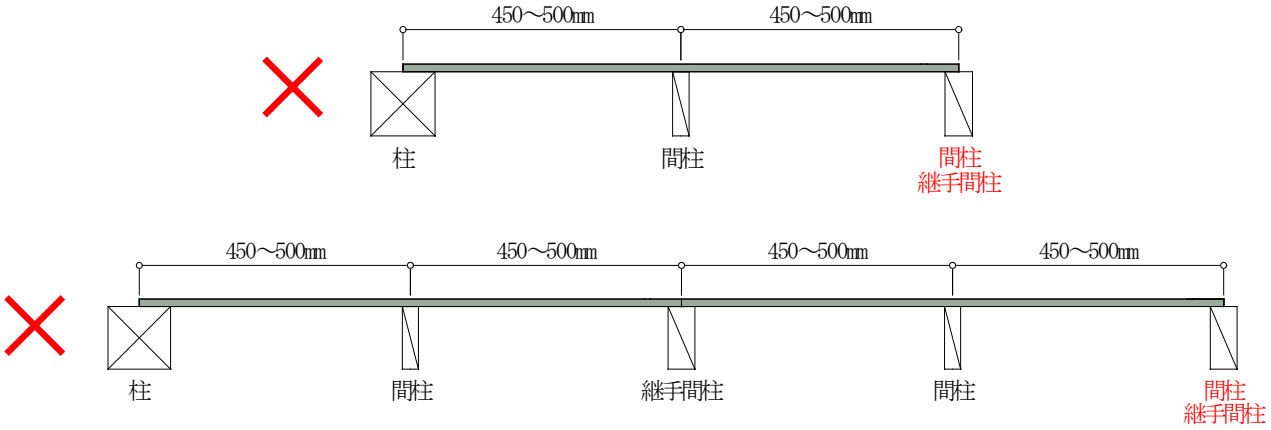


図 20　端部が間柱および継手間柱の壁　納まり図

⑩その他注意事項

・指定の用途以外にご使用の場合は性能を保証いたしかねます。
・THHT ネクストは、太陽光等が当たると変色する場合がありますが、性能に影響はありません。
・THHT ネクストの切断作業では集塵などに留意し、防塵カッターや集塵丸鋸を使用してください。
　また、サンディングなどの作業で発生する粉塵に対しては、防塵マスクや安全メガネを着用してください。
・在庫の際、積層段数が多いと荷くずれの危険があります。
・THHT ネクストの廃材、梱包材および洗浄排水の処理は、環境公害とならないようにご注意ください。

※その他、本資料に記載のない事項につきましては、あらかじめお問合せいただきますようお願い申し上げます。
　また、本資料に記載のない事項で施工された場合は、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。